

第 25 期・第 2 回 科学者委員会 男女共同参画分科会

ジェンダー研究国際連携小分科会 議事録

日時：令和 3 年 7 月 9 日（金）18:00～19:45 オンライン開催

出席：井野瀬久美恵、高橋裕子、星乃治彦、三成美保（4 名/4 名）

（アイウエオ順、敬称略）

参考人：科研 挑戦的研究(萌芽) 19K21738「女性学長はなぜ増えないのかー日本の構造的
特質と将来展望の探索ー」メンバー

- ・河野銀子 山形大学, 地域教育文化学部, 教授（研究代表者）
- ・高橋裕子 津田塾大学, 学芸学部, 教授
- ・佐々木啓子 電気通信大学, 大学院情報理工学研究科, 教授
- ・黄梅英 尚絅学院大学, 総合人間科学系, 教授
- ・米澤彰純 東北大学, 国際戦略室, 教授（体調不調のため欠席）

参考人グループも含めた自己紹介の後、審議に入った。

議 題

本小分科会の審議内容とも関わって、「女性学長をめぐる日本の構造的特質：リーダーシップ育成のあり方を問う」という研究成果報告が、参考人グループからなされた。この研究報告は、2021 年 5 月 30 日（日）に日本高等教育学会・第 72 回大会 I－1 部会（学長リーダーシップ）で行われたものをベースとしている。

本研究報告は、「女性学長の選出や活躍のあり方からみた日本の大学の多様性と、それを支えるリーダーシップがいかにあるべきかという普遍的課題に挑戦し、文献や半構造化インタビューの調査分析によって女性学長・リーダーの実態を実証的に検討、日本の高等教育の構造的特質を示し、大学リーダーシップ育成のあり方を問う」ものである。

法律的整備にも関わらず、日本の女性学長の割合は世界と比して顕著に低い（アメリカ 3 割 欧州 2 割に比しても 2020 年段階で 12.8%）。その原因解明に向けて、報告は、①選考制度、②人材プール、③育成システム、という三本の柱を立て、各々計量的分析とインタビュー手法を通じて日本における構造的特質を浮かび上がらせ、今後を展望する内容であった。

委員からのコメントは内容も論点也多岐にわたったが、共通したのは、本研究成果自体が極めて貴重な資料であり、それゆえに、研究の性格上できるだけ早期に出版を含め公にして社会的関心を喚起する緊要性があるのではないか、ということであった。

今後、今回の研究報告の成果とデータを本小分科会の議論にどう生かすかを含め、継続審議していく。

以上